



## 『 鉄の記念日 』

12月1日は<鉄の記念日>です。安政4年(1857年)のこの日、今の岩手県釜石市の大橋鉄山で、南部藩士(盛岡藩士)大島高任(おおしま たかとう)を技術指導者として洋式高炉の火入れが行われました。これが近代日本の鉄の源流となりました。

もっともこの日付は旧暦で、新暦では1858年1月15日ということになります。業界では便宜上、旧暦のまま12月1日を採用し、洋式高炉100年を迎えた翌、昭和33年(1958年)から、この日を鉄の記念日に制定しました。

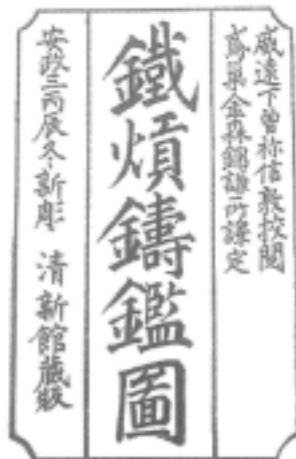
ところで、たんに洋式高炉を築いたというなら、じつは鹿児島で薩摩藩主 島津斉彬の指揮のもとに、安政元年(1854年)に竣工したもののほうが古いのです。また1858年には北海道の箱館(函館)の古武井に、北辺開拓事業の一環として、高炉は築かれました。それにもかかわらず、釜石のみが近代製鉄業の発祥地と言われています。

その理由の第一は、大島高任が洋学者・技術者としての資質、組織力、さらにその技術思想がまったく群を抜いていたことです。第二は釜石が原料資源のうえで恵まれていたことです。最も重要なことは、釜石を中心とする岩手県地方一帯に、鉾石精錬という土着の技術が、すでに長い伝統をもっていたことです。

大島高任は文政9年(1826年)南部藩医を父として盛岡に生まれ、弘化3年(1846年)長崎に留学、手塚律蔵らとともに蘭学を学び、オランダ語の文献をとおして「西洋の兵法、砲術、鉾山、製鉄の方法」を修め、また高島流砲術の免許皆伝を受けました。この長崎時代に高任は学友の手塚とオランダの造兵・冶金技術書、U. ヒュゲニン著『リエージュ国立鑄砲所における鑄造法』(1826年刊)を翻訳しました。『鐵煩鑄鑑図(てっこうちゅうかんず)』などの訳名で知られるこの本は、反射炉や砲鑄造の技術のみでなく、高炉の構造・鉄鉾石の製錬もくわしく記載されています。



大島 高任



**史跡 橋野高炉跡**

指定年月日 昭和三十三年六月三日

この史跡は、大島高任の技術指導によって大橋の地に安政四年に三座の洋式高炉が築造され十二月一日(鉄の記念日)に初出鉄に成功した翌五年に築造され三座である。このほか、後比内二座、栗林及び砂子連に各一座合計十座が良質豊富な鉄鉾石の産地を背景にいずれも高任の指導によって建設された。これら高炉は鉄鉾石を原料とし、鉄の製造に成功した我が国最初の洋式高炉である。かくして我が国近代製鉄業は深い山々に開かれたこの地にその発祥をみ、やがて明治維新を迎えるや、官営製鉄所の発足となり、釜石製鉄所の礎を築いたのである。

しかし、往時の雄姿をしのび得るものは、僅かにこの遺跡あるのみで、我が国の製鉄業発祥史上唯一の文化遺産として、この史跡のもつ意義はまことに大きい。

釜石市教育委員会

鉄の日にちなんで 洋式高炉法と土着技術 飯田賢一  
 「鉄鋼界」昭和50年12月号 大島高任(おおしま たかとう)  
<http://www.sennin-hisui.com/gaiyo/oosima.htm>  
 製鉄技術と釜石の歴史(上の写真借用)  
<http://160.29.97.19/tetu.html>

**むらの鍛冶屋®**



何でもお気軽にお尋ねください!!

ホームページと電子メールをご利用ください。  
 URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/>  
[ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)